

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターこじか園		
○保護者評価実施期間	令和6年11月1日		～ 令和6年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	47	(回答者数) 47
○従業者評価実施期間	令和6年11月1日		～ 令和6年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月18日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・親子による療育の充実	・「保護者通園」のため、小集団保育の内容についての目的や効果について、その場で保護者に説明を行っています。また、職員の、子どもへの接し方を直接見て頂き、保護者が、家庭の中で実践できることもメリットになると思います。	・子どもも保護者も安心して通えるよう、安全面や衛生面に配慮していきます。
2	・発達支援におけるプログラムの充実	・地域の幼稚園や保育園等に通いながら、併行通園ができます。お子さんの課題に沿って、「午前グループ」や「午後グループ」「SSTグループ」など、療育効果の高い、多様なプログラムの選択ができます。	・各種研修会への参加や、施設内勉強会を行い、発達支援の更なる充実を目指し、職員のスキルアップを図ります。
3	・保護者支援の充実	・保護者の悩み相談を随時、個別で行っています。また、月1回程度は「保護者講座」を開催するとともに、年長児の保護者にはペアレント・トレーニングを実施しています。 ・「親の会」が月1回あり、保護者同士が悩みや情報を共有できる場を設けています。	・「午後保育」や「SSTグループ」の保護者も講座に参加ができるよう、情報の伝達を行います。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域住民や、近隣の認定こども園等との交流	・併行利用している利用者が多いため、保護者からのニーズは少ないように思います。また、コロナの影響で地域の関わりやボランティアの受け入れに制限を掛けていたことも要因と考えます。	・こじか園の開放日を設け、自由に見学できるようにし、交流を図る等、検討していきます。
2	・きょうだい児への支援体制	・保護者同士の交流の中で、きょうだい児について話し合ったり、「きょうだい児の会」のチラシを掲示したり、対応はしているが交流までは行っていません。	・安全面が確保できる範囲内で、長期休暇時期や行事にきょうだい児の同伴について検討していきます。
3			